

広尾学園中学校高等学校 (前 順心女子学園)

帰国生には最高の環境と条件 (9)

国際担当 小山 和智

2007年4月、新生「広尾学園」がスタートしました。順心女子学園の帰国生に対する受け入れ体制や個別指導の素晴らしさが、既に合格した多くの男子にも開放されることになりました。ますます目が離せない学校です。

● 広尾学園が“上位校”に格付け

4月に発売された学研『高校受験案内 2008年入試用』で、広尾学園高等学校「特進Ⅰ類」の“合格偏差値”(合格率80%以上)が「65」、特進Ⅱ類が「60」と載っています。これを統計学的に説明しますと、首都圏の中学生の上位7%以内の生徒が「特進Ⅰ類」に、上位15%以内の生徒が「特進Ⅱ類」に入ってきたということです。

学園の国際生入試においても、「特進コース」の出願資格を「現地校・国際学校・日本人学校等で上位15%以内の成績を有する者」としているわけですから、その点でも基準は同じです。本誌でも、現地校・国際学校等ではA～Eの5段階評価なら「平均B」以上、日本人学校中学部の成績で5教科(国・数・社・理・英)の評定合計が「18」以上が目安であることを、説明してきました。

これが中学校入試では、首都圏の小学6年生の2割弱しか受験しませんので、偏差値の数字は約10ポイント低く出ます。つまり、高校入試の「60」は、中学入試では「50」とほぼ同じということになります。一部の受験雑誌等で「広尾学園中学校の偏差値は“38”」などと紹介されていますが、間違いです。

もっとも、帰国生特別選抜においては学科試験を課さないで、偏差値は合否に全く関係ありません。元から上位15%以内に位置する生徒が受験生の大半を占めていますので、今年の中学入試では帰国生は受験した31名全員が合格、その内20名が入学しています。



● 学習スキル (Academic Skills) を伸ばす

広尾学園の教育理念は「自律と共生」にあります。「大人になった時、自分のやりたい仕事に就いていられること」「さまざまな背景や価値観を持つ人とも一緒にチームを組み、よい成果を挙げること」を理想としているのです。その夢に向かう方略(strategy)、つまり中学・高校時代を有意義に効率的に過ごすためには、自ら学ぶ“学習スキル”の訓練が不可欠と考えます。

もちろん、自分で課題を見つけ、いろいろな観点から情報を収集・分析し、簡潔にまとめて発表するという地道な作業の繰り返しは、目標(ゴール)が見えていないと苦痛です。生徒には「25～30歳の自己イメージを大切に」と繰り返し言いますし、そこから逆算してきて「今の自分は何をすべきか」を考えさせるようにしています。

入学試験の方法においても、帰国生の“学習スキル”や潜在力を計るようにしています。希望の進路によっては、適性試験やカウンセリングテスト(満点が取れて当たり前の問題)を課す場合もありますが、基本は前の学校の成績と、小論文と面接の結果で選抜します。評価の観点は「さまざまな視点から見る力」「論理的な思考力」「相手に説明・説得する力」の3つです。これらが備わっていれば、学力はどんどん伸ばしていけるからです。

● 広尾学園高校がJ8日本代表に決定!

今年の先進国首脳会議(G8)はドイツで開かれますが、今年の「ジュニア・エイト(J8)サミット」の日本代表チームに、広尾学園の「HIROGAKU EIGHT」が決定しました。G8各国の代表チーム(高校生で編成)がG8の議題と同じテーマで話し合い、共同提言をまとめてG8首脳会議で発表するというものです。メンバーは6月2日(土)に日本を出発、ドイツ北岸のヴィスマールで1週間の日程をこなします。

<http://www.j8summit.com/japan/pages/4/360>